

### ノースカロライナ州 教育視察団を迎えて

アメリカ合衆国ノースカロライナ州から、イーストカロライナ大学教授二名、同州の郡教育委員長四名（一名欠席）から成る教育視察団の来訪があった。視察団の目的は、日本の教育事情の視察と、学校間の姉妹校としての交流、人的な教師間の交流など、教育実践交流の道が開けないか、というものである。

来訪当日、教育視察団は、附属幼稚園の保育活動や小、中学校の授業を参観したり、中学校の英語の授業に直接参加したりするなど、児童生徒の学習活動の様子や教師の教授活動、さらには教室環境や学校環境などを興味深く見て回られた。

幼稚園では、園児が自由に造形活動をしたり、歌を歌ったり、本を読んだり、積み木遊びや折り紙をしたりしている場に出会われた。

特に、土だんごをつくったり、容器に水といっしょに入れてどろどろに溶かしてまごごとをしている園児に、彼等の国では見られないためか、目を見張られたようである。

また、園児たちが全て帽子をかぶって活動しているのが不思議に感じられたのか、さかんに質問しておられた。小学校では、教師が四十人の児童と



▲小学校での授業参観

よって、尾道の浄土寺の茶室を模して造られた本格的なものがある。現在、PTAの茶道同好会が有効に活用している。

茶道の作法やお茶席から眺める庭の美しい景色に、「ワンダフル」を口々に発された。

また、歓迎する意と懇親を深めるため、ビアパーティを開いた。この席には、本校教職員はもちろんのこと、忙しいなか、学園のPTA会長さんや幼稚園、小学校、中学校のPTA副会長さんも駆けつけてくださり、交流の和を広げることができた。

ビールを酌み交わしながら、PTAの組織やその活動の様子や教育活動に対する意見の交流をしたり、お互いの

向き合って一斉授業（個別学習と形態が異なる。）をする場面を見られ、その効率のよさに目を向けられた。行政という視点から、彼らの国の広い教室空間と比較しながら、狭い空間を非常に工夫して使っていることにも関心を示された。

### 生きた会話の行き交う 学習を体験

中学校では、視察団の代表スペンス博士が英語での授業にAETとして参加され、日本での英語教育を体験された。生徒たちは、あらかじめ作っていた英文で、自己や三原市や附属学園のことを説明したり、質問されたことに

## 三原学園へ

副校長 ◆ 浦 島 啓

## ようこそ附属

附属三原小学校

国の歌を交換したりしながら、楽しくかつ有意義な時間を持つことができた。

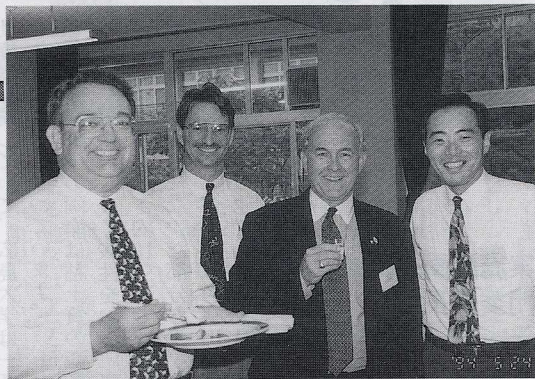
### 交流を通して

十分な準備が整わないまま、教育視察団を受け入れる戸惑いもあったが、文化の違いを持つ異国の人と、直接に通じ合えない言葉にもかかわらず、心もって話し合うことができたことは、本学園の児童、生徒や教職員や保護者にとって、たいへん有意義で価値ある国際交流の一つであった。

今後、この交流を通して培われたものが大きく育ち、附属三原学園の教育に、国際化の道の一つが開かれれば幸いなことである。（うらしま・あきら）



▲歓迎レセプションで▲



▲尾道の浄土寺の茶室を模して造られた本格的な茶室で



自分たちの英語の力で一生懸命に答えるなど、生きた会話の行き交う学習を体験した。授業の後、視察団から、「英語の授業でアメリカの歴史なども学習されますか」という質問がなされた。国際理解ということから、少し耳の痛い質問であった。昼食時には、小学校で児童が食べる物と同じ給食を用意した。食事中に、学校教育の情報交換や広報委員や中学生からのインタビューがなされた。ホールなどで食べるランチスタイルと、教室で子供たちが自分たちで準備して食べるスタイルとの違いに目が向けられ、調理がどのようになされ、それが子供たちにどのように行き着くのか、そのシステムについて質問を寄せられた。

また、中学校の新聞部は、訪問者の国の中学生の様子や授業を参観されての感想、附属学園に対する印象などを尋ねた。

### 地域の教育事情を尋ねて

午後、表敬訪問と地域の教育事情を尋ねて尾道教育事務所案内した。そこでは、事務所長をはじめ、AETで来ている二人のアメリカ人や指導主事とお会いすることができた。そして、自分たちの仕事の内容や組織の様子や地域の教育行政をどのように推進しているかなど、用意された資料を使って説明を受けた。

視察団からは、それについて質問を重ねたり、交流できる地域や内容がないものかどうか尋ねられたり、お互いの情報交換が活発に行われ、たいへん意義ある話し合いがなされた。

### 歓迎レセプション

夕方から、附属三原学園で歓迎レセプションを開いた。

その一つは茶道で、茶室に案内し本校の先生がお茶をたて、お手を披露するとともにおすそめした。（本校には、女子師範があった頃、篤志家の厚意に

### コラム

ついでに、附属三原小学校に現在滞在中の、もう一人（？）の来訪者を紹介しておきたい。段ボールの中であるくなっているのは、イヌでもなければネコでもない。フクロウの雛である（愛称は「ふくちゃん」）。五月に保護され（どうも巣から落ちたらしい）、以来小学校で育てられている。子供たちが蛙を取ってきたり、副校長の浦島先生がスーパに肉を買い出しに行ったりと、ふくちゃんは現在小学校のアイドル的存在になっている。巣立ちの予定は7月初旬とか。この「箱入り娘（それとも息子か？）」に一目会いたい方は、小学校に連絡されたい。（広報委員 越智 真）

